

県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取湖陵高等学校

重点項目	I C T活用教育重点校	提出日	平成30年1月29日
------	--------------	-----	------------

1 学校目標
<p>[1]教育方針</p> <p>自立：自己の向上に努め、たくましく社会を生きぬく力を育成する 協同：お互いを思いやり、共に行動できる豊かな人間性を育成する 創造：実践をとおして、新たな価値を創造できる力を育成する 実践的な教育をとおして、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、自主性・自立性を養い、社会人としての素養を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>[2]教育目標</p> <p>「多面的な取組で専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」</p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てる。 ②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。 ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。 ④キャリア教育の充実により人生を生き抜く力を身につけ進路の実現を図る。 ⑤生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>
2 重点項目に係る目標
<p>目標達成のための平成30年度重点目標</p> <p>教育活動全体をとおして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。</p> <p>(1) 専門力を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 各科の専門領域の基礎基本を身につけさせる教育を推進する。 基礎基本を応用した技術や高度な内容に関する調査・研究などに挑戦する。 学びの成果を活かし、資格・検定取得に積極的に取り組む。 農業学科では農業生産工程管理（G A P）の平成31年度認証を目指すとともに、H A C C Pの取得に向かって調査・研究を進める。 5 Sを推進することで、職業人としての態度や姿勢を培い、実践力を身につける。 これらの取組を通して地域の産業を担う専門人材を育成する。 <p>(2) 新たな学び方の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学び方を積極的に実践する。</u> <u>I C Tの活用を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。</u> <u>専門教科と普通教科の連携等の工夫を行い、学力の向上を目指す。</u> 生徒の仲間とともに「学ぶ喜び」「学ぶ責任」があることの意識を高める。 <p>(3) 社会に開く学びの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や産業界と連携を進め、学校での学びを社会で生かす能力の基礎を育てる。 地域に本校の教育資源を提供し、産業界や地域の教育力を本校に導入することで、生徒の専門力を高める。 <u>異世代や障がいのある方との交流体験を通し、人権を尊重し、共に育つ共育を推進し、共生の心や自他を尊重する気持ちを育む。</u> <p>(4) 人生を生き抜く力の育成</p>

- ・基礎学力の向上も含めキャリア教育を充実する。
- ・インターシップやスーパー農林水産業士等の長期就業体験などの取組を通して、鳥取県の産業を担う人材を育て地域に貢献する。

(5) 規範意識を育て安全・安心な学校をつくる

- ・高校生として、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開くことができる意欲と素直さを身につけさせる。
- ・生徒の心情を十分に理解し、特別な支援が必要な生徒などにも十分に配慮を行う。
- ・教職員が方向を一つにし、保護者や地域と連携しながら明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。

<数値目標>

- iPadを使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになった生徒の割合
(学校全体、学校評価アンケートより H29 56.2%) …… 60%以上
- 交流学习を通して、自ら進んでコミュニケーションが取れるようになった生徒の割合
(情報科学科、情報科学科アンケートより H29 88.3%) …… 85%以上
- iPad(タブレット型端末)を活用して授業を実施した教員の割合
(教職員、県活用状況調査より、H29 66.6%) …… 75%以上

3 事業計画 (事業名、事業概要)

【高等学校課事業】

(1) 外部人材活用事業

情報科学科のデザイン・プログラミング等の学習において専門の講師から知識や技術を学ぶことができる。また、「食のみやこととり」では販売促進用ノベルティグッズの提案等を行い、地域イベントに連携する。

(2) ICT学びの充実プロジェクト

学習支援クラウドサービス「Classi」を導入(情報科学科の生徒全員。一人一台所有しているiPadにアカウントを付与)するとともに、教員用iPad(5台)を導入し、継続的に生徒とのやりとり等で利用することにより、以下の2点について成果を検証する。

- ①生徒の学習時間の増加、学力向上 ②教員の授業改善(授業の効率化を含む)

【独自事業】

(1) 新たな学び方の創造

ア. ICT教育の推進

- ①BYOD(Bring Your Own Device)の実行と検証(情報科学科iPad)

本校情報科学科では、生徒個人がiPadを入学時に購入し、授業等で活用しており、県内では先進的な学習活動を展開している。新学習指導要領では、学習におけるICTの効果的な活用が求められており、校内でのICT教育をさらに推進するため、設備面の充実やソフトウェアの活用を積極的に行う。本校での実践をとおして本県のICT教育の発展、情報発信に努めたい。

また、特別支援学校・小学校との交流を通して、生徒のコミュニケーション能力、人間関係力を高め、各校との連携のもと有効なiPadの推進に取り組む。

イ. ICTアクティブラーニングの推進

本校では平成27年度から全科共用のiPadが導入され、ICTを活用した授業改善に全職員で取り組んでいるところである。協同して学ぶ力や主体的に学ぶ力、言語活動能力の充実を目指している。アクティブラーニングや協同学習を推進するための研修や研究会、成果発表会等をとおしてその深化を図る。

【その他】

情報科学科では、学習支援ソフト(Classi)を活用した学習を実施している。普通教科を中心に授業での利用や家庭学習の習慣化を目標にその円滑な活用方法を検討中である。